熊毛地域MAP

鹿児島県

ここが熊毛地域だよ!!

みんなでさがそう!

守りたい森林

1 西之表市 湊のマングローブ

種子島の北部にあるマングローブで、自生群落としては最北端に位置する群落として貴重です。メヒルギ1種で構成されている群落です。ハマジンチョウ、ハマナツメも混生しています。西之表市の指定天然記念物になっています。

2 西之表市 住吉のガジュマル防潮林

種子島の中部にあるガジュマルの防潮林で、住吉のものは明治初年に防風、防潮、護岸のため、沖縄より移植したと伝えられています。幹や枝から多くの気根を生じ異観を呈します。西之表市の指定天然記念物になっています。

3 西之表市 国上のヘゴ自生群落

種子島の北部にあるヘゴ自生群落で、杉や竹の林で覆われた小川の流域約1kmに自生する、他に例を見ない大群落地。周辺の自然環境も豊かへゴが生い茂る林を見上げていると太古の雰囲気を肌で感じられます。西之表市の指定天然記念物になっています。

4 中種子町 南種子町 熊野のマングローブ

（提供写真）

種子島の南部にあるマングローブで、大浦川河口付近と阿嶽川河口付近に発達する群落があります。大浦川河口付近では広大な塩沼地をなしており、メヒルギだけの群落が発達しています。阿嶽川河口付近ではハマジンチョウを含む混生群落をつくっています。

5 南種子町 本村海岸の海岸林

（南種子町）

種子島の南部にある海岸林で、汀線帯に沿って、草本性の植生が発達し、続いて広葉低木群落となり、クロマツ群落から最内陸帯のタブ～マテバシイ群落となっています。後背地の耕作地等を保護する防風防砂の役割を果たしています。

6 屋久島町 屋久島スギ原始林

（屋久島町）

屋久島の標高800～1,900mの広い範囲にあり、樹齢が高いものが多いです。スギ林は雲霧帯にあり、着生植物（ヤマグルマ等）が多いのが一つの特徴。日本のスギ林の中でも、屋久島のスギ林は氷河期の遺遊地になっていたと言われ、貴重な天然遺産です。

7 屋久島町 志戸子のガジュマル－ハマビワ林

（屋久島町）

屋久島の北部にある植生で、数本の巨大なガジュマルと低木層の優占種であるハマビワからなります。林床はヒトツバが多く、海岸の森林にこのような植生は少ないです。ガジュマルは多くの気根を下垂し、それが接地して太くなっているものが見られます。

8 屋久島町 花之江河・小花之江河の高層湿原

（屋久島町）

屋久島の中部にある日本最南端の高層湿原で、ミズゴケを基盤として小水路が走る湿原です。北に黒味岳を望む開けた地で、可憐な花を咲かせる高山植物がくれない、その間を清流が流れます。初夏にはヤクシマシャクナゲが咲き乱れます。

貴重な植物

（写真：鹿児島県立博物館）

スギ

分布は本州（青森県）から、四国、九州の屋久島まで。その中で屋久杉は、屋久島の標高500メートル以上の山地に自生するスギ。このうち1000年を超えるものを指し、若い屋久杉を「小杉」と呼んでいます。

スダジイ

分布は本州、九州から与那国島まで。常緑広葉樹で、樹高20m、直径1.5mに達します。成長すると樹冠がドーム状に丸くなり、スダジイ林を上からみますと、ブロッコリーが集まっているように見えます。

ヤクタネゴヨウ

絶滅危惧種で、屋久島と種子島にのみ自生するマツ科マツ属の常緑高木です。胸高直径2m以上、樹高30m以上に達します。近年、個体数が激減しています。

ヤクシマシャクナゲ

屋久島の固有種あるいは固有変種です。屋久島の高地に自生するツツジ科ツツジ属シャクナゲ亜属の常緑低木。屋久島町の花に選定されています。

メヒルギ

分布は薩摩半島南部（旧鹿入町・旧大浦町）・種子島・屋久島以南。マングローブの最前線に生える常緑小高木で、高さ4～7mに達します。

ガジュマル

分布は屋久島・種子島以南、海岸～低地の陽地によく孤立木として生える常緑高木。枝や幹からは多数の気根を垂らし、やがてその一部が地面について太い支柱根になります。

アコウ

分布は本州・四国から琉球。海岸から山地に生える常緑高木。ガジュマルとともに絞め殺し植物とも言われ、他の樹上で発芽・生長し、気根が地面に到達すると急速に生長して宿主の樹木を枯らしてしまいます。

タブノキ

分布は本州から琉球まで。常緑樹林の林冠を構成する主要樹種の一つ。葉をちぎるとかすかに樟脳の香りがします。成長のスピードは遅く、太い方もで大きくなります。大高木で、樹高は30mほどになります。

屋久島の植生垂直分布など

北緯30度のやや北にある屋久島は、平均気温が20℃近い亜熱帯の北の端といった気候で、人里にはハイビスカスやブーゲンビリアなど熱帯の花も咲いています。

しかし、山を登ると100m毎に0.6℃ほど気温が低くなり、標高2000m近い山頂では6℃台と北海道なみの亜寒帯に近い気候となります。

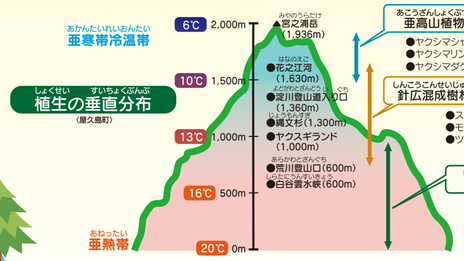
屋久島は直径30ｋｍに満たない島ながら、南北2000ｋｍにおよぶ日本列島の自然がつめ込まれています。海岸から山頂へ、気温の変化にしたがって南から北へと植生が移り変わる植物の垂直分布を見ることができます。

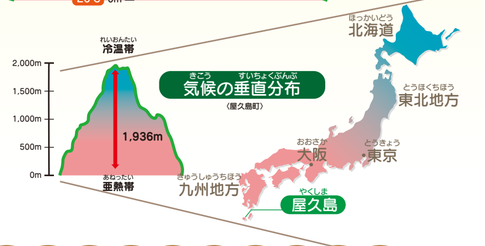
海岸に近い平地はガジュマルやアコウなども見られる亜熱帯的な照葉樹林です。

山地では標高1000mを越えるあたりまで、関東地方付近まで広く見られるシイやカシが多い温帯南部の照葉樹林が山肌を埋めています。標高が高くなるにつれて、しだいに常緑の照葉樹林から紅葉する落葉樹も見られる森林へと移り変わります。

屋久杉は、標高500mを越えるとあらわれ、700mあたりからは屋久杉林といえるほど針葉樹が多くなります。

屋久杉の多い森は山頂近くまで続きますが、寒冷な気候の山頂部では亜寒帯や亜寒帯と共通の植物も花を咲かせています。





大切にしたい巨木

西之表市 1 榕城小学校のアコウ

●場　所…榕城小学校内
●樹種名…アコウ
●樹　齢…460年
●樹　高…15m
●幹回り…5m

中種子町 2 豊受神社にある日本一の大ソテツ

●場　所…坂井の豊受神社内
●樹種名…ソテツ
●樹　齢…700年（推定）
●樹　高…10m
●幹回り…2m

西之表市 3 上西小学校のセンダン

●場　所…上西小学校内
●樹種名…センダン
●樹　齢…不明
●樹　高…7m
●幹回り…5m

屋久島町 4 縄文杉

●場　所…宮之浦岳国有林内
●樹種名…スギ（推定）
●樹　齢…2000年～7200年
●樹　高…25.3m
●幹回り…16.4m

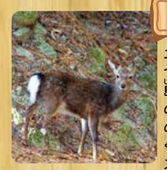
人と共存する動物

（写真：鹿児島県立博物館）

ヤクシマザル

屋久島だけに生息するニホンザルの亜種。本土のニホンザルに比べ少し小型で、体毛は色度が低く太くて長いのが特徴です。

ヤクシカ



ニホンジカの亜種のひとつで、屋久島と口永良部島に生息しています。体の大きさは、ニホンジカの亜種の中でも特に小さく、四肢（足）も体のサイズのわりに短いです。

マゲジカ

ニホンジカの亜種のひとつで、馬毛島に生息しています。体の大きさはニホンジカより小さいです。毛色は比較的黒く、背中や目の回りの黒さが目立ちます。

アカヒゲ

主に薄暗い照葉樹林内に生息して、林床近くを移動しながら「ヒーヒョイヒョイヒョイ、ピルルルル」とよく澄んだ声でさえずります。